【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公開番号】特開2002-322106(P2002-322106A)
【公開日】平成14年11月8日(2002.11.8)
【出願番号】特願2001-128670(P2001-128670)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｃ　29/80　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　29/62　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ　31/36　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 301/26　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 303/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｃ　29/80
Ｃ０７Ｃ　29/62
Ｃ０７Ｃ　31/36
Ｃ０７Ｄ 301/26
Ｃ０７Ｄ 303/08

【手続補正書】
【提出日】平成20年2月7日(2008.2.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　反応器を用いて塩酸溶液中でアリルアルコールを塩素化して得られる２，３－ジクロル－１－プロパノールを含む溶液を脱ガス塔に導入して塩化水素を放散せしめてその塩化水素を反応器に戻し、残液より２，３－ジクロル－１－プロパノールを得る２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法において、脱ガス塔に導入する直前の反応器出口液中に溶解する塩素濃度を0ｇ／ｍＬを超える濃度～0.015ｇ／ｍＬ以下の濃度に保持することを特徴とする２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。
【請求項２】　反応器を用いて塩酸溶液中でアリルアルコールを塩素化して得られる２，３－ジクロル－１－プロパノールを含む溶液を脱ガス塔に導入して塩化水素を放散せしめてその塩化水素を反応器に戻し、残液より２，３－ジクロル－１－プロパノールを得る２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法において、脱ガス塔の直前の反応器に出口反応液に溶解する塩素濃度をモニターする分析計を設置し、塩素濃度を0ｇ／ｍＬを超える濃度～0.015ｇ／ｍＬ以下の濃度に保持するように反応器に導入する塩素ガス流量を制御する請求項１に記載の２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。
【請求項３】　反応器を用いて塩酸溶液中でアリルアルコールを塩素化して得られる２，３－ジクロル－１－プロパノールを含む溶液を脱ガス塔に導入して塩化水素を放散せしめてその塩化水素を反応器に戻し、残液より２，３－ジクロル－１－プロパノールを得る２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法において、脱ガス塔の直前の反応器における気相部の塩素分圧を0.08ＭＰａ（絶対圧）以下に保持することを特徴とする２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。
【請求項４】　反応器を用いて塩酸溶液中でアリルアルコールを塩素化して得られる２，３－ジクロル－１－プロパノールを含む溶液を脱ガス塔に導入して塩化水素を放散せしめてその塩化水素を反応器に戻し、残液より２，３－ジクロル－１－プロパノールを得

る２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法において、脱ガス塔の直前の反応器に気相部の塩素ガス濃度をモニターする分析計を設置し、塩素分圧を0.08ＭＰａ（絶対圧）以下に保持するように反応器に導入する塩素ガス流量を制御する請求項３に記載の２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。

【請求項５】　塩化水素をＨＣｌ／（H_2O＋ＨＣｌ）として４０～７５質量％含有する塩酸水溶液を使用する請求項１乃至４のいずれかに記載の２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。

【請求項６】　－３０～２０℃の温度でアリルアルコールの塩素化反応を行う請求項１乃至４のいずれかに記載の２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。

【請求項７】　１ＭＰａ（ゲージ圧）までの圧力でアリルアルコールの塩素化反応を行う請求項１乃至４のいずれかに記載の２，３－ジクロル－１－プロパノールの製造方法。

【請求項８】　請求項１乃至７のいずれかに記載の方法で製造される２，３－ジクロル－１－プロパノールをケン化反応に付することを特徴とするエピクロルヒドリンの製造方法。